

可茂会 後援会報

第22号

2014.12.1

発行

社会福祉法人
可茂会 後援会
可児市瀬田1648の9
発行者 前島 宗直
TEL 0574-64-3366



愛情込め
たパン作り



カフェ & ベーカリー 麦の丘

営業時間：8:30～15:00

休日：水、日、祝日

TEL・FAX：0574-65-0127

可児市東帷子3827番地6

花と緑とからくり時計の
可茂学園

安心できる老後社会の実現に向けて

可茂会後援会会長 前島 宗直



会員の皆様には、多大なご支援ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

今年度の健康フェア可児のバザーには皆様のご協力により沢山の品物を販売することができ、過去最高額を記録しました。本当にありがとうございます。

さて、障害者福祉を取り巻く環境は、制度改正によって障害者が「可能な限り身近な地域で生活し支援が受けられる」共生社会の実現をめざしています。よって、今後、可茂学園のような入所施設の建設は無いと思います。

四人に一人が六十五才以上の高齢者です。可茂学園においても保護者、利用者の高齢化が進み、利用者の家庭環境も毎年変化しています。保護者の高齢化、家庭環境の変化により、可茂学園の必要性が年々増して来ています。

可茂学園の維持、存続と利用者のより良い生活環境作りのために積極的に行動したいものです。保護者（親）が先になくなった時、本人はどうなるかが一番の心配ごとです。「手をつなぐ育成会」が

実施した意向調査で、育成会で取り組んでほしい要望に「障害者のための老人ホームの設立」、「法人による後見人センターの設立」、「利用者への充実した指導等のために更なる待遇改善と増員」などがあります。保護者、利用者が安心した老後が送られる社会を早く実現させたいものです。最後にになりましたが会員皆様さんのご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

時代に合った福祉施策を

会員の皆様と共に

園長 池田 博子

会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は可茂会後援会に多大なる御支援を賜り誠にありがとうございます。

今年は自然災害の多い年でありました。集中豪雨による土砂災害、突然の御嶽山の噴火、そして長野県の地震と改めて自然災害の凄まじさに恐ろしさを感じ知らされました。

一方では、十一月二十七日の早朝

のテレビでは、「和紙」が日本の伝統的な技術として認められユネスコの無形文化遺産として登録されたという嬉しいニュースがありました。千三百年の歴史を有する岐阜県美濃国の「本美濃和紙」が登録されたということには、とりわけ感慨深いものがあります。何百年も経つと朽ちてしまふ洋紙に対し和紙はきれいに現存し後世に歴史を伝える役目を果たしており、現に正倉院に残

る戸籍用紙にも使われているものであります。また、昨年の十二月には「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録され日本の伝統的な食文化が評価され改めて日本食の良さを見直す機会にもなつたと思います。先人が築き上げてきた素晴らしい日本の伝統文化、食文化を後世まで守り受け継いでいつまでも継承したいものです。

さて、我が国の福祉制度は古代社会においてすでに（飛鳥期から平安末期）皇室や朝廷を中心に公的救済制度として行われていたようでありました。古くは五九三年には聖徳太子によって「四箇院」と言われるところの悲田院、敬田院、施薬院、療病院といった現在の福祉施設と言えるものが造られていました。様々な障害のある人、病気の人、貧しい人々を救済する方法として近親者による相互扶助、そこで救済できない場合は、近隣社会つまり村落が援助しそれでも不可能な場合には公的扶助による救済制度が行われていたとあります。

フォーマルサービス、インフォーマルサービスが古代社会において既に実施されていたという

ことを文献で知ることができ、福祉サービスがいつの時代にあっても必要であることをしみじみと感じた次第であります。今後も二一ズに沿った、時代に合った福祉施策が後退することなく進められ全ての障害のある方々の尊厳

が守られる社会であることを祈って止みません。終わりに会員皆様方のご発展をお祈り申し上げますと共に、今後とも可茂会後援会にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。第22号の後援会報といたします。

東海北陸大会に参加して

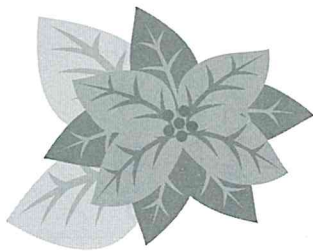
荻山 百合子

十月二十五、二十六日の二日間豊橋市で「第四十七回手をつなぐ育成会東海北陸大会愛知大会」が開催されました。私は、今年度明宝会の役員を仰せつかり初めて大会に参加しました。

ています。日々の生活の中で私たちの記憶は、すぐ忘れてしまうのですぐに書きとめ記録することが大事だと思っています。家族、支援者による見守りの重要性、多くの仲間と一日一日を楽しむ過ごせる安心、安定した社会を作る事が大事だと感じました。

まず驚いたのは、東海、北陸の各地域から大勢の人が集まり盛大に行われることでした。私は、第五分科会「老いる。豊かな老後を過ごすために」の講演を聞いて来ました。今まで学園まかせで知らない事が多く、聞いていても頭の中に入ってきて来なくて混乱するばかりでした。

障害者、認知症の高齢化が進むと同時に、介護する方も高齢化し



健康フェア可児に参加して

加治木 ぼずみ

十月十九日、可児市文化創造センターにて健康フェア可児が皆様のご協力のもと開催され、沢山のバザー用品と麦の丘の手づくりパンを販売しました。

当日は雲ひとつないほどの晴天で大勢の方が来場されました。開店してから閉店まで客足が途だえることなく、お客様から「毎年このバザーを楽しみにしている」との嬉しい言葉も頂き、とても楽しく参加させて頂きました。

保護者の皆様には今年も沢山の品物を提供頂きありがとうございました。今年も無事に催すことができました。それも皆様のご協力があったことだと思えます。

今後も、可茂会後援会にご理解ご協力をよろしくお願い致します。



親睦旅行

メロン狩りコースに参加して

加藤 恭子

十月四日、さわやかな秋空の中、真っ赤な岐阜バスが、私達を出迎えてくれました。早い出発で子供が心配していました。予定どおり七時半に園生さんに見送られバスは発車しました。ガイドさんの「メロン狩りが二回目の人はみえますか?」の質問に「ハイ、二回目です」と答えられ驚きましたが、それだけ好評なコースだと思いました。

途中、田原町道の駅「めつくんはうす」で、野菜が安くつい購入してしまい、子供と「ここで買わなくてもいい物買っちゃったね」と大笑いでした。メロン農園の看板を見て到着かと思いましたが、農園の方がバスに乗られ、ハウスへ案内されました。メロンの採り方の説明のあと、ハサミをもってハウスに入りました。親子で「これはどう?」「小さい」「これなら大きいと思うよ」「よくない?」と話しながら、ハウスの中をグルグルまわって大きなメロンを一個採りました。親子で



初めてのメロン狩り体験でした。農園で準備してあったメロンを半玉食べて、お腹が一杯だと思つてましたが、伊良湖ビューホテルの昼食も大変美味しく完食しました。子供が、「小学生の時、家族でここで泊まったよ」と言うのに驚き、そんな時もあったんだなと感慨深い思いでした。帰路の途中、「えびせんべい」と「ちくわ」共和国で、いろいろ試食しました。今回で二回目の親睦旅行でしたが、トイレ休憩には、職員の方がいつも入り口で対応し

てくださっていたので、安心してスムーズに休憩ができ、自動販売機で飲み物を買ったり、おみやげを買うこともできました。旅行に行く機会を失っていた親子が、こうして

飛騨高山コースに参加して

堀井 恵子

今年も学園行事である親睦旅行に親子で参加しました。当日は天候にも恵まれ車中から見える紅葉の鮮やかさがとても印象に残っています。

飛騨高山祭りの森での絢爛豪華な山車、からくり人形の金太郎と熊の相撲対決など、まるで高山祭りに実際に参加している

ようで時間を忘れて楽しく過ごすことが出来ました。短時間の間でしたが地域の歴史や文化、巧みの技を見学し高山の凄さを体感できました。又、高山グリーンホテルでの昼食。普段味わえない飛騨牛会席に舌づつみを打ち親子共々幸せな気持ちになりました。今回のようなコース料理など日常の中では行くことなど滅多に無いので子供にとつて良い経験がが出来たと思っています。板蔵ラーメンの試食もあり、息子は



終始笑顔で楽しめたようです。近年では子供とゆつくり過ごす時間が少なくなってきたので「コミュニケーション」を取り充実した良い一日になりました。旅行に参加したことで子供との楽しい思い出がまた増え感謝しています。ありがとうございました。

昨年から参加できるようになれた事は、学園のために尽力された方や職員の皆様のおかげだと感謝しています。

可茂学園入所利用、通所利用、三ツ池ホーム(グループホーム) 利用者概況

●地域別利用者数

平成26年10月1日現在

地域名	可児市	美濃加茂市	御嵩町	多治見市	土岐市	坂祝町	川辺町	関 市	瑞浪市
入所利用者 (三ツ池ホーム)	11 (5)	8	6 (1)	4	2	3 (1)	5	3	3
通所利用者	16	4	7	3	1				
地域名	八百津町	岐阜市	七宗町	白川町	岐南町	笠松町	飛騨市	高山市	合計(人)
入所利用者 (三ツ池ホーム)	4	1	1	1	2	2	1	1	58 (7)
通所利用者									31

●男女別年齢構成

年齢(歳)	20未満	20～	25～	30～	35～	40～	45～	50～	55～	60～	合計(人)
入所利用者(男性)			4	4	7	8	8	2		7	40
入所利用者(女性)			1	1	2	4		1	2	7	18
通所利用者	4	10	8	4	3	2					31
三ツ池ホーム		1		3	1	1	1				7
合計(人)	4	11	13	12	13	15	9	3	2	14	96

●平均年齢

入所利用者(男性)	入所利用者(女性)	通所利用者	三ツ池ホーム
45.5歳	50.5歳	27.5歳	35.5歳

愛のともしび基金様のご助成で
三ツ池ホームの送迎車両を購入しました

平成二十四年八月に新築整備した「三ツ池ホーム」は、定員八名の女性専用のグループホームです。現在7名の入居者は、ホームよりそれぞれの事業所へホームスタッフの送迎により通所しております。「三ツ池ホーム」には当初より専用車両の配備がなく、バックアップ施設である「可茂学園」のリフト付ワゴン車やハイエース(十人乗り)を送迎車として共同使用しておりました。

しかしながら、可茂学園入所利用者の高齢化に伴い、車いすでの生活を余儀なくされる方が増えたこと、平成二十五年十月より相談支援事業を開設したことにより、その共同使用が更に困難となっております。

今回岐阜県愛のともしび基金様より、平成二十六年事業費



三ツ池ホーム 愛のともしび号

補助金として「三ツ池ホーム送迎車両」へのご助成を頂き、十二月十七日に納車されました。毎日の送迎で使用頻度も多いため、快適で乗りやすい送迎車に利用者も職員も大変喜んでおります。



平成25年度 社会福祉法人可茂会後援会決算書

収入の部				
(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 費	1,590,000	1,756,000	166,000	
特 別 会 員	90,000	90,000	0	30,000円×3口
正 会 員	1,200,000	1,400,000	200,000	10,000円×140口
育 成 会 員	180,000	183,000	3,000	3,000円×61口
賛 助 会 員	120,000	83,000	-37,000	1,000円×83口
2. 雑 収 入	35,000	78,650	43,650	バザーの売上等
3. 利 息	0	0	0	
4. 前 期 繰 越 金	4,073	4,073	0	
合 計	1,629,073	1,838,723	209,650	

支出の部				
(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 議 費	20,000	20,326	326	弁当代等
2. 事 務 費	600,000	395,715	-204,285	
通 信 費	10,000	4,680	-5,320	切手代
印刷製本費	100,000	86,625	-13,375	会報印刷代
事務消耗品費	10,000	4,410	-5,590	コピー用紙代
施設整備費	380,000	250,000	-130,000	草刈り(業者委託)
雑 費	100,000	50,000	-50,000	夏祭り協賛金
3. 振 込 手 数 料	3,000	1,670	-1,330	郵便振替手数料
4. 積 立 金	1,006,073	1,400,000	393,927	施設整備積立金
合 計	1,629,073	1,817,711	188,638	

収入総額 1,838,723円
 支出総額 1,817,711円
 収支差額 21,012円 (次期繰越)

監査報告書

平成25年度の可茂会後援会決算について監査の結果、その収支は正確に処理され、また証拠書類も整備されています。
 よって平成25年度決算は適正であることを認め、報告いたします。

平成26年 3月 8日

可茂会後援会
 会長 前島 宗直様

監査委員 小 椋 捷夫
 栗畑直喜

特別会計報告書 施設整備積立金

	収 入	支 出	残 高
平成21年度積立金(郵便局定額預金)	1,300,000		8,568,000
平成22年度積立金(郵便局定額預金)	1,188,000		9,756,000
平成23年度積立金(郵便局定額預金)	244,000		10,000,000
マイクロバス寄附(24.10.10)		6,900,000	3,100,000
マイクロバスのスタッドレスタイヤ寄附(24.11.30)		288,000	2,812,000
平成24年度積立金(郵便局定額預金)	2,490,000		5,302,000
平成25年度積立金(郵便局定額預金)	1,400,000		6,702,000

- 平成二十五年六月八日(土) 可茂会役員会
- 平成二十五年六月十八日(火) 後援会会員の業者訪問
- 平成二十五年九月十四日(土) 可茂会役員会
- 平成二十五年十月二十日(日) 可児市健康フェアへ参加
- 平成二十五年十一月九日(土) バザー(売上金五五、〇〇〇円)
- 平成二十五年十二月一日(月) 可茂会役員会
- 平成二十五年十二月十四日(土) 可茂会後援会会報の発行
- (二十二年三〇〇部)
- 平成二十六年二月八日(土) 可茂会役員会
- 平成二十六年三月八日(土) 可茂会役員会(中止)
- 平成二十五年三月八日(土) 可茂会後援会監事監査
- 可茂会後援会役員会
- 平成二十五年年度会員加入状況について
- 平成二十五年年度決算報告について
- 平成二十六年年度予算(案)について
- 平成二十六年年度事業計画(案)について
- 平成二十六年年度後援会役員(案)について
- 平成二十六年年度の総会の打ち合わせ

社会福祉法人可茂会 後援会総会報告

平成二十六年四月十二日(土)
 (於可茂学園福祉センター)

- 一、開会の言葉
- 二、会長挨拶
- 三、園長挨拶
- 四、議長選出
- 五、議事 I
- (一)平成二十五年年度後援会事業報告

- (二)平成二十五年年度後援会決算報告と承認
- (三)平成二十五年年度後援会特別会計報告と承認
- (四)平成二十五年年度後援会監査報告と承認
- 六、議事 II
- (一)平成二十六年年度後援会役員選出と承認
- (二)平成二十六年年度後援会事業計画(案)の承認
- (三)平成二十六年年度後援会予算(案)の承認

七、閉会の言葉

平成二十五年年度 事業報告

平成二十五年四月十二日(土)
 可茂会後援会総会

- 平成二十四年度事業報告
- 平成二十四年度決算報告と承認
- 監査報告
- 平成二十五年年度事業計画(案)承認
- 平成二十五年年度予算(案)承認

平成二十六年年度 事業計画

【基本方針】

社会福祉法人可茂会は、利用者の個人の尊厳を保持しつつ地域社会において自立した生活を営むことができるよう支援することを基本理念として設置されました。開設以来、可茂会「後援会」をはじめとして多くの皆様の温かいご理解

解とご支援に支えられ、順調に施設整備の拡充を図ってまいりました。

近年は社会福祉法人に対する補助についても見直しがなされ、従来にも増して公的助成が厳しくなることが予想されます。

今後は利用者の重度化、高齢化に伴う施設整備が必要となります。そのための整備の資金作りの援助を目的とします。

平成26年度 社会福祉法人可茂会後援会予算

収入の部				
(単位：円)				
科 目	25年度予算	26年度予算	比較増減	摘 要
1. 会 費	1,590,000	1,570,000	-20,000	
特 別 会 員	90,000	90,000	0	30,000円×3口
正 会 員	1,200,000	1,200,000	0	10,000円×120口
育 成 会 員	180,000	180,000	0	3,000円×60口
賛 助 会 員	120,000	100,000	-20,000	1,000円×100口
2. 雑 収 入	35,000	35,000	0	バザーの売上
3. 前 期 繰 越 金	4,073	21,012	16,939	
合 計	1,629,073	1,626,012	-3,061	

支出の部				
(単位：円)				
科 目	25年度予算	26年度予算	比較増減	摘 要
1. 会 議 費	20,000	20,000	0	
2. 事 務 費	600,000	580,000	-20,000	
通 信 費	10,000	10,000	0	切手代
印 刷 製 本 費	100,000	100,000	0	会報印刷費
事務消耗品費	10,000	10,000	0	コピー用紙代等
施設整備費	380,000	380,000	0	草刈り(業者委託)
雑 費	100,000	80,000	-20,000	夏祭り協賛金
3. 振 込 手 数 料	3,000	3,000	0	郵便振替手数料
4. 積 立 金	1,006,073	1,023,012	16,939	施設整備積立金
合 計	1,629,073	1,626,012	-3,061	

【重点目標】

一 組織強化活動

① 会員の拡大

(平成二十六年年度目標)

特別会員： 三〇〇

正 会 員： 二〇〇

育成会員： 六〇〇

賛助会員： 一〇〇〇

② 情報の収集と提供、広報活動の推進

③ 会員相互の連携と協同活動の促進

二 各種会議の開催

① 総会の開催 年一回

四月十一日(土)午前十時

② 理事会の開催 年九回

③ 監事会の開催 年一回

三月十四日(土)午後一時

三 調査、広報活動

① 後援会会報の発行 年一回

可茂会後援会にご加入を

年間会費

特別会員	一〇〇	三万円
正 会 員	一〇〇	一万円
育成会員	一〇〇	三千円
賛助会員	一〇〇	一千円

皆さんで、可茂学園施設整備資金確保に向かって、新会員のご加入をお勧めください。

可茂会後援会事務局

TEL 六四・三三六六

可児市文化創造センターで、10月19日(日)に開催されました『健康フェア可児』でバザーを行いました。売上金は76,020円でした。皆さんのご協力ありがとうございました。

平成二十六年年度

可茂会後援会役員

会 長	前 島 宗直
副会長	加 藤 敏明
理 事	加 藤 政博
理 事	梅 田 實美
監 事	小 椋 捷夫
監 事	柴 畑 直喜

- ② 会員拡大に必要な広報活動
- ③ 可児市健康フェアへの参加(バザー) 十月十九日(日)
- 四 施設整備の助成事業
 - ① 園舎、麦の丘、三ツ池ホーム周辺の環境整備(業務委託)
- 五 法人運営費の助成事業
 - ① 施設整備積立金へ積み立てる

平成二十六年年度

後援会員名簿

=敬称略=

特別会員

〔二〇〕 吉田整備

(株)濃飛葬祭

正会員

〔五〇〕 エース薬局 広見店

(株)三宅設計

〔三〇〕 長瀬 邦夫

前島 宗直

〔二〇〕 (株)日本空調岐阜

山本 孝盛 谷口 義晴

宮川 春子 村瀬 正樹 吉田 健治

〔二〇〕 小境電気工事

ミズノ観光(株)

(株)新興設備

(有)中部フロンパン瓦斯商会

(有)フエックス

可児市建設業協同組合

(有)伊藤電気工事

ヘアサロン鈴木

渡辺須磨子 花井 一彦

曾木登美子 菅井 省二

高木 武典 堀井 幸一

小川 裕一 小島 孝三

大崎 俊昭 酒向 清治

後藤 邦久 前田千賀子

花井 哲郎

一瀬 清人

森 鉄雄

山田 順子

近藤なみ子

竹原 孝

育成会員

〔二〇〕 林 順二

〔二〇〕 遠藤八重子

齊藤みはる

栗畑 靖紀

加藤 幸子

玉井美世子

長谷川伸二

山田多美恵

藤野三津子

栗畑千代美

亀貝 泰洋

河合 清子

〔二〇〕 尾関 英治

〔二〇〕 原科つぎ子

谷口 里子

〔二〇〕 長瀬 修一

〔二〇〕 亀谷 正勝

〔二〇〕 大野 率子

山本 信男

向井 信

今井 初子

〔二〇〕 長瀬 寿

〔二〇〕 井藤三千子

〔二〇〕 梅田 早苗

渡辺美知夫

石原佐喜夫

〔二〇〕 大前 貞子

〔二〇〕 伊藤 正和

〔二〇〕 大嶋 久興

〔二〇〕 加藤寿之夫

〔二〇〕 平岡ゆみ子

〔二〇〕 長谷川栄作

〔二〇〕 小島九十男

〔二〇〕 山田 輝世

〔二〇〕 片岡 良雄

〔二〇〕 鈴木かな奈

〔二〇〕 加藤孝子

〔二〇〕 松原 裕子

〔二〇〕 永瀬 和子

〔二〇〕 飯島 明美

〔二〇〕 市橋 香奈

〔二〇〕 今井 友香

〔二〇〕 藤原明日香

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 川合圭伊子

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英

〔二〇〕 塚本 幸治

〔二〇〕 伏屋 公博

〔二〇〕 伊藤 博人

〔二〇〕 川合 哲也

〔二〇〕 加納 学

〔二〇〕 伊藤 哲也

〔二〇〕 山口 智也

〔二〇〕 加藤 拓男

〔二〇〕 堀田 泰史

〔二〇〕 伊藤 和代

〔二〇〕 伊藤 克人

〔二〇〕 渡辺 浩英